新しい幹部挨拶

S. Naemura

新支部長挨拶

21世紀のディスプレイ技術の発展に先駆けた役割を果たしていくべく、今年第8回目にとなるIDWをより充実させていくことと、日本支部としての尽力をさらに深めていきたいと考えています。

本郷の皆さん、皆様のご活躍に対する支えを深く感謝の意を申し上げます。今年のIDWでは、様々な分野でのディスプレイ技術の発展と活用が期待されています。皆様のご活躍を支えるだけでなく、その成果を多くの方々に共有し、また支え合うことができると信じています。皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。
第7回ディスプレイ国際ワークショップ（The Seventh International Display Workshops : IDW ’00）が、映像情報メディア学会とSID(The Society for Information Display)学会との共催により、2000年11月29日から12月1日までの3日間、神戸国際会議場で開催されました。会議は海外からの20カ国、379名と国内からの750名の合わせて1,129名の参加者がおり、発表論文数は、基調講演2件、招待講演2件を含めて、口頭発表203件、ポスターセッション99件、総計302件で、従来より規模の大きな会議になりました。また今回から共催学会の一つが、SID日本支部からSID本部に変わったことから、運営面においても海外委員の活動範囲が拡大するなど、名実共に真の国際会議になったという思いが致します。

会議冒頭の、挿絵菊茂先生IDW’00組織委員長の開催挨拶、SID会長A.Sizlar氏の挨拶を含め、2件の基調講演が行われました。最初の基調講演者は、SID会長のA.C.Lowe氏によるもので、急速な発展を遂げているディスプレイについて、画面の解像力、信号の周波数帯域、消費電力、等の相互関係を示す技術課題が掲げられ、解決の可能性が示唆されました。ついで、東芝の菅正雄氏による「AVネットワーク事業部長により、インターネットの進展を支えていくデザインとして、モバイル性のあるAudio-Visual (Video)機器を位置づけ、将来のネットワーク戦略についての考え方が示されました。

会議の2日目の夜には、ワインの残香が懐かしい中にでのインビジブルセッションが設けられ、2件の招待講演が行われました。1件はアジア地域からの代表として、香港科技大学のH.S.Kwock教授にSiマイクロディスプレイに関する開発の現状と将来についての講演を頂きました。また、ThomsonPlasma（フランス）のJ.Deschamps氏からは、PDP技術の世界の高い技術レベルに到達しているのは世界中の多くの研究者の協力があることなどを、短い期間開催に携わってきた氏から経験に裏打ちされたお話を聞くことができました。

IDWは技術分野でそれぞれの特長を持つ複数（今回10件）のワークショップが、独自性を持ちながらお互いに協力し補完して、ディスプレイ技術の広い範囲をカバーし、かつ深く掘り下げた議論も可能になるようにと考えています。

口頭発表には、全会場ともに液晶プロジェクタが用意され、各講演者は持ち込んだ自分のノートパソコンを使用して発表できるようになりました。ディスプレイの学会にふさわしく、レベルの高い画面構成によるプレゼンテーションも多くなり、今後もこの傾向は強まっていくものと思われます。ポスター論文も内容の優れたものが多数、セッション時間が過ぎても発表者との間で議論が盛んに行われます。今年も例年通り、優れたポスター発表に対して「IDW’00 Outstanding Poster Paper Award」の選考がなされ、11件の論文が選ばれて、会議最終日のおーサインイベントの後に表彰式が行われました。

IDW’00は発表論文の数と質、参加者数、参加国数いずれの点においても、ディスプレイ技術の重要な国際会議として十分な資格を有するようになってきました。次回は、3年毎にアジア地域で開催されるAsia Displayと共催で、10月16日から19日の4日間、名古屋国際会議場で開催される予定です。今後ともIDWへのSID日本支部の会員特にのご支援と積極的な寄与・参加をお願いして、IDW’01の概要報告とします。

AD/IDW’01について

21世紀開けのIDWは、IDRCすなわちAsia Displayと一体となった会議として開催されます。愛称をAsia Display/IDW’01といまします。略して、AD/IDW’01です。期も今年は4日間です。10月16日から19日まで、名古屋国際会議場での開催です。

21世紀のディスプレイはどのように発展していくのでしょうか。20世紀の液晶は今後発展するものでなく、有機材料の科学技術がひとつの新しいカタログかもしれません。昨年は導電性ポリマーの発明という業績がノーベル化学賞の対象に選ばれ、ディスプレイ・コミュニティにおいても話題になりました。受賞者のひとりで、特に有機ELによる応用が期待されているカリフォルニア大学サンタバーバラ校のAlan Heeger教授を、AD/IDW’01の基調講演にお呼びする予定です。

Asia Displayと一体となったAD/IDW’01は会期が長いため、言語のスコードも拡張されます。従来のIDWを構成するワークショップに加えて、いくつかのトピカルセッションが設けられます。今すぐ下記の13の分野での講演・討議が計画されています。

Workshops:

LC Science and Technologies

苗村省平（メルクジャパン）

Ad/IDW’01について

Active Matrix Displays
FPD Materials and Components
CRTs
Plasma Displays
EL Displays, LEDs and Phosphors
Field Emission Display
Large-Area and Projection Displays, and Their Components
3D/HiPer-Realistic Displays and Systems

Topical Sessions:

Organic EL Displays
Hardcopy and Color Science
Display Electronics
Applied Vision and Human Factors

IDWは映像情報メディア学会とSIDが共催する、ディスプレイの国際会議です。支部長挨拶にも書きましたように、SID日本支部としても最大限の支援をしたいと考えています。会員の皆様のご協力をお願いします。そしてあなた自身も、世界の約20ヶ国・地域から集まる1000名を超えるディスプレイ研究者・技術者の輪の中に入って、論文発表・討議をおこない、交流を深めてください。

論文投稿の申込み締め切りは、5月31日です。会員割引での事前登録締め切りは、9月14日です。10月には、会員全員で名古屋に集まりましょう。
学生会員旅費支援制度の適用者

適用者 6th ASID in Xi’an (2000. 10. 18～20)

1. 氏名：本川 堂行
   属：電気通信大学
   論文名：Generation Mechanism of Various Moire Fringe Patterns in High Resolution CRT Monitors

2. 氏名：豊岡 健太郎
   属：東北大学
   論文名：The Three-Dimensional Display Using a Field-Sequential Light Direction Control of the Back-Light

3. 氏名：石山 譲
   属：八戸工業大学
   論文名：Geometrical Effect of Microgroove Surface on Alignment of Liquid Crystal Molecules

4. 氏名：中島 宏佳
   属：静岡大学
   論文名：Luminescent Properties of SrGasS:Eu Thin Films Deposited by Multi-Source Deposition

5. 氏名：山下 智生
   属：山口東京理科大学
   論文名：Optical Logic Gate and Display Device Using Double Layered Half-V Shaped FLCD-Cells

6. 氏名：吉川 嘉哲
   属：山口東京理科大学
   論文名：A Polarizerless Reflective GH-LCD Exhibiting Good Legibility Using Nanomaterial Doped NLC Aligned Homotropically without Rubbing

SID日本支部2001年度役員（OFFICERS 2001）

支部長 Shohei NAEMURA
苗村 省平 Chairperson

副支部長 Vice Chairperson
下平 美文 Yoshifumi SHIMODAIRA

庶務幹事 Secretary
奥村 藤男 Fujiio OKUMURA

会計幹事 Treasurer
土屋 譲 Yuzuru TSUCHIYA

庶務幹事補佐 Secretary-elect
長谷川雅樹 Masaki HASEGAWA

会計幹事補佐 Treasurer-elect
金子 好之 Yoshiyuki KANEKO

「2000年度SID受賞者の声」訂正

N. Ibaraki

ニュースレター第15号の「2000年度SID受賞者の声」で写真に
誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

Special Recognition Award
茨木 伸樹（東芝）

For development of amorphous- and polycrystalline-Si TFT materials,
device processing, array structures, and TFT-LEDs

1981年にアモルファス・シリコン薄膜トランジスタ(a-Si TFT)に魅せられて首を突っ込み、大型液晶ディスプレイを作り
tいと、わざと元来の開発一筋で過ごしてきました。1995
年からは、ポリシリコン(poly-Si) TFT開発にも着手しました。
この19年間、社内外の多くの方々のご指導とご協力を仰ぎ、み
んなで作り上げてきた成果の一つ一つが今回の受賞につなが
ったものと考えております。この場をお借りして、あらためて
関係各位の皆様に感謝したいとともに、これからもディス
プレイの益々の発展に尽力したいと思います。
SID日本支部元支部長鈴木俊二氏の死を悼む

毎年開催される春のSID、秋のIDRCなどSID関連の国際会議は勿論、つい先年まで神戸国際会議場で開催されたIDW '00にも、あらためて観客席を埋めた鈴木俊二先生が2000年12月11日、急逝され(享年68歳)。SID関係者をはじめディスプレイコミュニティの一員、驚きと悲しみの中からまだ抜け出せていません。

鈴木先生は、1975年のSID日本支部を故三戸左内先生とお二人で創設されたと言っても過言ではないでしょう。先生からは初代支部長の故三戸左内先生と共に、その運営にご苦労されたことをよくお聞きしました。「支部の運営がなくては、春のSID報告会、評価委員会、総会・・・など、会議は会社のご好意によりシャープの幕張ビレッジホール、会議室を借りてやりくりしたんだよ。SID報告会だけは今でも続けているんだよ。」その後、1984-85年副支部長、1986-88年支部長、1995-96年SIDアジア地区副会長を歴任されました。副会長のときには、特にJapan DisplayをAsia Displayと変身させてSIDアジア地区的発展を助けることに大変努力されました。このように、鈴木先生は、今日のSID日本支部の隆盛とSIDアジア地区的発展に大きく寄与されました。

鈴木先生は、シャープ㈱に在職中は、薄膜ELディスプレイの研究に従事され、特にELパネルの駆動方式やメモリー型ELの研究では顕著な業績をあげられ、1983年SID Special Recognition Awardを受賞されました。1989年シャープを退社された後、奈良工業高等専門学校の教授として、また、1996年からは国際基盤材料研究所、関インターフェースの常務として勤務され、ディスプレイ技術・業界発展に多大な貢献をなされ、1993年SID Fellow、1996年SID President Citation Award、1997年SID Lewis and Beatrice Winner Awardを受賞されました。

鈴木先生のお力により誕生したSID日本支部は、昨年創設25周年を迎えましたが、私たちは鈴木先生からますますご指導を仰ぐことが多くなっているとき、鈴木先生を失い、ご意見を伺えなくなったことは大変残念なことです。ご冥福をお祈りいたします。

松浦 昌孝（シャープ）

学生会員旅費支援制度の改定について

2000年12月21日に開催された日本支部総会で「SID日本支部学生会員への成果発表旅費支援制度」の対象学・会議名が次のように改定されました。

改定前
2) 対象学会・会議名：SID及びSID日本支部が主催・共催する下記学会：ASID・IDW・IDRC、及び下記選考委員会で必要と認めた学会・会議。

改定後
2) 対象学会・会議名：SID及びSID日本支部が主催・共催する申請者の居住国以外で開催される下記学会：ASID・IDRC、及び下記選考委員会で必要と認めた学会・会議。

会計幹事からのお知らせ

会員状況（2000年12月28日現在）

<table>
<thead>
<tr>
<th>会員数</th>
<th>維持会員</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>支部支払い</td>
<td>427人</td>
</tr>
<tr>
<td>本部支払い</td>
<td>404人</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>831人</td>
</tr>
</tbody>
</table>

2000年度は過去最高の会員数を記録しました。会員皆様方のご支援の賜物です。このただけで、会計の任務を無事に終えられたことに厚くお礼を申し上げます。

（前会計幹事 奥田菜一郎）

13号〜本号までのニュースレターを担当していた土屋です。このたび、奥田さんの後を引き継ぐことになりました。よろしくお願いいたします。

（会計幹事 土屋 譲）